



U

大学



ギャラリー・間100回記念となる展覧会

都市環境デザイン コース共催で 「この先の建築展」

7月24日から8月7日にかけて、8号棟3Fレセプションホールにて「この先の建築展」が催されました。

た。21世紀を迎えた現在、様々なことが大きな変動の中にあり、「建築」の在り方もまた揺れ動いています。そのような状況の中で建築家自身は、「この先の建築」をどのような射程で捉え、実践しているのか。この展覧会では、30代から70代までの建築家を大きく5つの世代にわけ、各5人ずつ、総勢25人の建築家を選び、それぞれ将来のビジョンを示す自身の作品またはプロジェクト模型を出品してもらいました。展示は、24の模型（横文彦氏を除く）とインタビュウの

映像で構成され、それらを通じて「この先の建築」についての様々な展開を予感させる示唆に富んだ展覧会となりました。
展示会場の計画と施工は例年通り本学都市環境デザインコースの学生によるもので、色とりどりのドロップチェアをキャンパス全体にちりばめ、25人の建築家のヴィジョンの多様さを表現しました。来場者からも好評をいただき、例年を大きく上回る1700人を越える入場者数を記録しました。（都市環境デザインコース清水裕一）

7月末から8月上旬にかけて、長崎で行われた全国高校総合体育大会インターハイで、陸上部、ソフトテニス部がすばらしい成績を上げました。
陸上部の川崎聖子さん（1年）は200mを24秒80で走り、全国3位。表彰台に上がりました。
ソフトテニス部の渡辺真澄さん、佐藤香代子さん（3年）のペアは5位に入賞しました。
両部とも本校の伝統あるクラブで、毎日、大変な練習量をこなして勝ち取った栄冠です。
他に、囲碁部は、東京の日本棋院で開かれた第27回全国高校囲碁選手権大会（囲碁インターハイ）で団体戦ベスト16に入りました。メンバーは深見麻里絵さん（主将、2年）、富永千尋さん（副将、3年）、加藤玲奈さん（三将、1年）です。
今年の全国大会には、インターハイに24名、国体に8名が愛知県代表として選ばれました。

- インターハイ代表
- ・ソフトテニス部 渡辺真澄さん、佐藤香代子さん、薄良美さん、日馬聡美さん
 - ・陸上部 伊藤有奈さん、山元美駒さん、湯田友美さん、尾関朝美さん、加藤育子さん、坂田知穂さん、川崎聖子さん
 - ・水泳部 竹迫麻貴さん、川口花織さん、外山恵里さん、落合幾子さん、白田奈奈恵さん、鈴木裕奈さん、沖田美波さん、間瀬礼奈さん、田中ゆみさん、高橋里佳さん
 - ・囲碁部 深見麻里絵さん、富永千尋さん、加藤玲奈さん
- 国体代表
- ・ソフトテニス部 渡辺真澄さん、佐藤香代子さん
 - ・陸上部 川崎聖子さん、坂田知穂さん
 - ・水泳部 落合幾子さん、沖田美波さん
 - ・ソフトボール部 阿部裕美さん、馬淵朝子さん

CAMPUS TOPICS

アイルランド政府より 大学図書館へ 文献寄贈

U

大学



寄贈式後、学長を中心に図書館で記念撮影。手前は寄贈された34冊



贈呈された目録を手にして、マーフィー駐日アイルランド大使と握手を交わす坂元図書館長

アイルランド政府より大学図書館にアイルランド関係図書一式が贈られることとなり、7月8日（火）、長久手本館プラウジングコーナーで寄贈式が開催されました。
ポドリグ・マーフィー駐日アイルランド大使のスピーチに続いて、寄贈図書目録が贈呈され、大学からは坂元多（いさお）図書館長の返礼スピーチがありました。
今回の寄贈は1987（昭和52）年より続いている英文学料の

アイルランド文学講座（大野光子教授）の実績に敬意を表してのもです。文学を始め、歴史、地理、政治、社会など、寄贈された34冊（詳細一覧は、図書館サイトを参照）は、アイルランドについて利用者にさまざまな幅広い視点をもたらすでしょう。
大使は図書館とマルチメディア・リソース・センター見学後、英文学料主催による「アイルランドの視点」と題した講演をされました。利用者へのPRも兼ねて、寄贈式前後の1週間を「アイルランドウィーク」と銘打ち、大学図書館本館とマルチメディア・リソース・センターの共同でアイルランド関連コレクションを展示しました。なお寄贈式は中日新聞（7月9日・なごや東版、7月10日・名古屋市民版）にも紹介されました。
大学図書館サイトアドレス
<http://www2.aasa.ac.jp/org/b/>

SH

高等学校

インターハイで 全国3位、5位に



左より陸上部の川崎聖子さん、ソフトテニス部の渡辺真澄さん、佐藤香代子さん、囲碁部の深見麻里絵さん、富永千尋さん、加藤玲奈さん



文化創造学部 横山萬里助教授の 呼びかけに 59人の女流画家が出品

文化創造学部の横山萬里助教授の呼びかけが始まった。中部日本画女流展が、5月27日から6月1日まで、中区の電気文化会館ギャラリーで開催されました。5回目となる今年は、愛知、岐阜、



写真左の絵が横山助教授の作品。右端は横山助教授

三重県の女流画家59人が出品しました。

横山先生は、「表現方法はさまざまですが、互いの励みとなり、競争心も刺激されて、年を追うことに意欲的な作品が集まり、楽しい」と話していました。



左が山口綾子さん、右が国立登喜子さん



卒業生

本学卒業生2人が 公認会計士 二次試験合格の 快挙

本学の卒業生2人が、難関の国家資格の一つである公認会計士二次試験に合格しました。国立こくりゅう(登喜子さん)短期大学英文学科平成3年卒業と、山口綾子さん文学部図書情報学科平成6年卒業)です。

証券会社で会計の仕事に興味を持ち、7年で退職。専門学校に通って3年目の一昨年に合格しました。山口さんは卒業後、営業職に就きながら簿記を勉強し、2級を取った時点でもっと上を目指そうと2年で退職。専門学校で6年間学び、昨年合格しました。

公認会計士というと、商学部や経済学部の人を目指す資格という印象がありますが、文学部卒業生も珍しくないそうです。「要は自分がその道に進みたいかどうかが大切だと思います(国立さん)」。公認会計士の試験は三次まであり、二次は合格率が8%程度という狭き門。合格後、2人は共に監査法人の最大手、トーマソン名古屋市中村区)に入所し、現在は会計士補として実務経験を積みながら、実務補習所に通って三次試験を目指しています。三次試験の合格率も61%強程度のため、まだまだ気が抜けません。公認会計士の主な仕事は、投

中江裕二監督を迎えて 文化創造フォーラム 開催



中江裕二監督



左は木全純治氏

7月12日(土)に、文化創造フォーラムが異が丘キャンパスで開催され、映画「ナヒヤの恋」の上映と、中江裕二監督のトーク・ショーが開かれました。

中江監督は、「ナヒヤの恋」が出世作。京都府出身ですが沖繩に魅せられ、沖繩を舞台にした作品を撮り続けています。最新作、ホ

テル・ハイビスカスは、今年最高の映画」と、さまざまな映画評で高い評価を受けています。フォーラムは昨年度、記念会堂に導入された映写設備を使って映画を上映した後、トークショーを開催しました。そこでは名古屋市内で映画館を主宰し、本学文化創造学部で非常勤講師を務める木全純治氏と、「ナヒヤの恋」撮影の舞台裏や映画関係者の素顔、現在監督が住んでいる沖繩の魅力などについて力のこもった、かつ

軽妙なトークが展開されました。ここ数年、映画だけではなくさまざまな面で脚光を浴びている沖繩の話題に、つめかけた本学学生を始め、ロミやホームページで開催を知った一般の参加者たちは熱心に耳を傾けていました。本フォーラムは文化創造学部設立を契機に始められ、今回で5回目。これまでも女流作家や落語家のトーク、モンゴル楽器の演奏などが行われ、毎回好評を博しています。

資家のために企業の財務諸表が正しく作られているかどうかをチェックすること。3~4人でチームを作り、クライアントの会社の経理部に赴いて仕事を行います。公認会計士の仕事の魅力は、男女差がなく一生続けることができ、海外派遣や駐在などもあり、独立もできる、さまざまな可能性があることだそうです。最後に、公認会計士を目指したいという本学の後輩にメッセージをいただきました。「公認会計士の試験制度は平成18年以降から大幅に変わります。今後は比較的合格しやすくなると思うので、チャンスだと思います。」(山口さん)



ビジネス コミュニケーション学科の 加藤万由子さんが 学生起業家選手権で入賞

ビジネスコミュニケーション学科2年の加藤万由子さんが、9月3



前列右端が加藤万由子さん

日に開催された、平成15年度学生起業家選手権「決勝大会」で奨励賞を受賞しました。起業家選手権は東京都と財団法人東京都中小起業振興公社の主催で、会社設立を目指す学生起業家の事業計画を評価、支援する大会。2回目となる今回は全国から100の応募があり、加藤さんは決勝に進む10人のうちの1人にも選ばれました。

加藤さんの事業計画は、カウンスリング・サラダ・デ・パー。一人ひとりの体質や生活スタイルやライフスタイルに合わせた、食プログラムの提案による個々へのボディサポート」という内容です。真田幸光教授のゼミで計画書を作成し、大会では大勢の審査員を前に堂々とプレゼンも行いました。

経済やマーケティングに興味があるという加藤さん。将来は女性だからこそできる社会貢献の仕事に就きたいと、現在は行政書士の資格取得を目指すなど、勉強に励んでいます。



CAMPUS TOPICS

U 大学



辛淑玉さん

人権擁護委員会 主催で 講演会開催

7月30日、「いまなぜ人権か？」
性別・国籍・人種を超えて」と題する講演会が開かれました
この講演会は、人権擁護委員会

2003愛知県私立中学校 進学フェア開催

JH 中学校



学校5日制を含む新学習指導要領による教育課程が開始されている中で、私立中学校の教育の現状を知ってもらい、児童やその保護者に学校の選択の幅を広げてもらおうと、今年も私立中の進学フェアが開催されました。

本校を含む県内の私立中学校19校が参加して、8月1日(金)2日(土)の2日間、松坂屋百貨店

により初めて主催され、人権についての意識を高め、大学における人権侵害セクシャルハラスメント、アカデミック・ハラスメント、国籍や出自による差別などによる被害を防止することを目的としたものです。

講師としてお招きしたのは、人材育成コンサルタントの辛淑玉さんです。辛さんは、人材能力の育成・人権啓発の分野で積極的な活動をしておられ、会場の長久手キャンパスECS教室には約200名の教職員・学生・大学院生・卒業生が集まりました。

会場は、辛さんの魅力に引き込ま

南館のマツザカヤホールを会場にして行われました。

盛夏の最中ではありませんでしたが、会場の各校のブースには多くの保護者や児童が詰めかけて、連日ほぼ盛況の状況でした。全体の入場者は2日間で3604人(昨年比130%増)となり、このフェアへの参加者は年々増え続けています。通算4回目となる今回は、新たに会場の真ん中に参加各校の制服を展示し、好評を得ました。個別ブースでの各校担当者の説明とともに、私学への関心を高めるものとなりました。

今年も小学5年生以下の児童と保護者が目に付き、「初めてこの種の会に参加した」という声も多く聞かれました。

私学教育の自由さと内容の先進性を多くの人に訴える機会に果たしたいと思います。

まれ、終始なやかなムードに包まれました。講演会は、「カミングアウト」「男の人権」「労組」「子どもの質問」「東大の三不思議」などをキーワードに、辛さんからのお話をうかがうだけでなく、参加者も発言し、会場が一体となつてあつという間に時間が過ぎていきました。

人権について、日常生活の中で見落としていること、無意識のうちに差別をしていることがあるかもしれない。講演をお聴きし、一人ひとりが人権についての感受性を豊かに、大学の中での人権について改めて考えていく必要性を認識しました。(石坂綾子)

長久手・星が丘で オープンキャンパス開催

U 大学



本学志望の受験生を対象に大学の施設等を開放する、オープンキャンパスが、長久手・星が丘両キャンパスで開催されました。

春(5月10日)は605名、夏(8月3日)は2525名が来場しました。特に夏は、昨年より23%増しと近年稀にみる増加となりました。東海4県はもちろんのこと、北は福島から南は沖縄まで、また米国・ヨーロッパ州からの参加者もあり、本学への関心の高さがうかがえました。

夏のオープンキャンパスは、長久手キャンパスで全体説明を計6回開催。学科説明と入試説明は、立ち見が出るほどの盛況ぶりです。熱心に耳を傾ける受験生の姿が印象的でした。星が丘キャンパスとを結び、シャトルバスも常に満員で文化創造学部、医療福祉学部

(2004年4月開設予定)には、約1000名が押し寄せました。当日は、それぞれのキャンパス内の施設が自由に見学できるように開放。長久手キャンパスの情報科学センターやソシオメディアセンター、星が丘キャンパスのマルチメディアセンターなどで、実際にコンピュータやスタジオ機材に触れることもでき、その充実ぶりにあちこちから感嘆の声が上がっていました。

「模擬授業」は、全学科・専攻コースで開講され、立ち見が出る学科もたくさんありました。一つ一つと複数の模擬授業をかけた持ちで受講する参加者の表情は、真剣そのもの。今後の志望学科・専攻の決定に大いに役立ったことでしょう。

なお、秋のオープンキャンパスは11月3日(祝)に大学祭と同時に開催します。受験生の皆さんのご来場をお待ちしています。

